

3

2026

三重病院

ニュースレター

news letter vol.314

01 子どもから大人へ
その歩みを医療で支えるために

ツウちゃんの病院探検(医療福祉相談室)

02 通所支援事業のひとコマ
異動のごあいさつ

5病棟の生活のひとコマ

03 2病棟の子どもたちの生活のひとコマ
今月のみえツウちゃん

04 病院からのお願い/外来診察のご案内



子どもから大人へ その歩みを医療で支えるために

移行期医療へ

小児慢性特定疾病をはじめ多くの慢性疾患を抱える子どもたちも、思春期・成人期を迎えます。原疾患が治療せず持続する場合、長期にわたる合併症を抱えたまま成長するケースもあります。こうした患者さんが年齢に応じて適切な医療を継続して受けるために、小児診療科から成人診療科へと診療の場を移す「移行期医療」が欠かせません。

しかし、長く通い慣れた小児科を離れるということは、患者さんやご家族にとって大きな不安を伴います。成人診療科では診療の雰囲気や関わり方が変わります。患者さん自身が病気を理解し、治療を選択していくことが必要になります。

移行期医療の課題

移行期医療には、いくつかの課題があります。

まず、医療体制の整備です。成長に伴い病態の変化や、成人期特有の病気への対応が必要となりますが、小児科では成人期の疾患に十分対応できないことがあります。反対に成人診療科では、小児慢性特定疾病に触れる機会が少なく、複数の診療科に受診する必要があることもあります。小児科と成人科がスムーズにつながる仕組みづくりは、全国的にも大きなテーマです。

もう一つの課題は、患者さんの自律性・自立性の支援です。病気の理解や自己

管理に不安を抱える方も多く、学業や就労と治療の両立といった生活面の悩みも少なくありません。医療だけでなく、日々の生活を見据えた支援が求められています。

こうした背景を受け、国では「移行期医療支援センター」の整備が進められています。小児科・成人科・地域の医療機関をつなぎ、患者さんの自立支援や情報共有を支える役割を担う機関で、現在は全国12か所に設置されています。令和7年度には三重県でも本格的な取り組みが始まり、三重大学医学部には移行期医療の寄附講座が新設されました。

三重病院の移行期医療

三重病院では神経疾患、精神疾患、循環器疾患、内分泌疾患など、移行期医療が特に重要となる領域を多く診療しており、移行期医療を支える体制づくりを進めています。数年前より精神疾患の移行期医療を、今年からは三重大学移行期医療の先生方にお越しいただき、神経疾患、循環器疾患の移行を始めております。小児科と成人診療科が丁寧に情報を共有し、患者さんにご家族が安心して次のステップへ進めるよう進めてまいります。

移行期医療は、子どもたちが大人へと成長していく大切な道のりを、医療がそっと支える取り組みです。三重病院はこれからも、安心して未来へ歩み出せる環境づくりに努めてまいります。

(小児科医長 鈴木 由紀)

